

すまっしゅ

住まい通信
地域広告版

87

vol.

発行:新潟日報社

お問い合わせ・申し込みは
新潟日報社 長岡支社業務部
〒940-0082 長岡市千歳1丁目3番43号
TEL (0258) 34-9620 FAX (0258) 34-9663
または新潟日報社契約広告代理店へ

Zoomup!

今月のズームアップ!

三方よしのプロジェクト

平織りの敷物「キリム」が飾られている書斎
北アフリカ北西部マグリブの先住民たちによる
「アール・ラトラス」と呼ばれるもので芸術性が非常に高い

仕事を通して社会貢献したい、関わった人すべてが楽しく働けるような仕組みを作りたい、そんな思いから新しいプロジェクトを立ち上げた人がある。近江商人の考えにちなんでつけられたという会社の名前は三方舎。代表の今井正人さんいわく「ここは人と人をつなぐ場所でもあります」とのこと。そこから一体どんな絆や物語が生まれるのだろうか。

近江商人の哲学「三方よし」。三方とは売り手、買い手、世間のことで、商人だけがもうけるのではなく、商いを通じて購買者や社会にも貢献できるような働き方をしようという理念を表したものだ。その考えにちなんで「三方舎」を立ち上げた今井さん。ただしこちらは「世間」の代わりに「作り手」が入る。この場合の作り手とはものづくりを通して伝統や文化を守っていくこととしている職人たちのことを指している。

環境への配慮などをよく自然に親から子へ伝えていくことができる、と今井さんは語る。その思いに賛同してくれる人も増え、今ではアートギャッベを扱うショップは全国で70店舗を数えるほどになった。



今井正人さん
自宅に飾ってあるアートギャッベの前で

こうして書くともまるで順風満帆のようだが「私が父から家具店を受け継いだ当時は経営状態が悪かったです」とのこと。何か新しい基軸を打ち出していきたい、そう思っているときに偶然出会ったのがギャッベだったのだ。この10年間、今井さんはビジネスを軌道に乗せるため懸命に走り続けた。「10年というのはちょうどいい区切り。ショップの経営では手応えも達成感も得ることができました」

Zoomup! 三方よしのプロジェクト

今月のズームアップ!

取材・文・編集:和田明子、和田竜哉 (リバティデザインスタジオ)
写真:渡辺治 (アートスタジオ)



上:三方舎を開くにあたり、ウッドデッキを拡張
日当たりも良く来訪者に人気の場所となっている

右上:アートギャッベはインテリアショップ「ボー・デコール」で販売
織り込まれた模様には鳥=幸運、鹿=家庭円満など、それぞれ意味がある



「今度は僕がギャッベから受けた恩を、海外の作り手たちに返していく時期だと思いました」
そこでけじめをつけるためにボー・デコールを退社、昨年三方舎を新たに立ち上げた。新潟市秋葉区新津地区の市街地に建つオフィスはかつて今井さんの父親が客をもてなすために使っていた建物。しかしここ数年はほとんど使われておらず、その場所を借り受けて書斎兼仕事場とした。もとの建物は明治

時代のもの。その柱と梁だけを残し増改築をしたため、古さと新しさが同居した不思議な魅力がある。ここを今井さんは仕事場としてだけでなく、ギャラリーとしても活用。若手作家たちの作品発表の場になっている。「いろんな人がこの書斎には集まります。たまに作家たちとの飲み会の会場にもなっていますよ(笑)」

三方舎が現在取り組んでいる主なプロジェクトはモロッコで衰退してしまっただ草木染めじゅうたんの復活と木工技術の継承の二つだ。「例えばモロッコの草木染めじゅうたんはフランスの植民地時代に化学染料が導入され、廃れてしまったという過去があります。でも品質を考えると古来からの草木染めのほうが断然優れている。しっかりと技術指導をすれば素晴らしいじゅうたんを作れる素地は十分にあります」。自分たちの文化を継承して世界に誇れるものづくりをする、技術者を育てて現地の女性たちの雇用を確保するという目的を掲げたこのプロジェクト。まずはアイト・ホゼマという地域の村で取り組み始めたが、これが成功したらモロッコのほかの地域にも活動を波及させていきたいと考えている。



左:落ち着いた空間には作家たちの作品がインテリアとして置かれている



インテリアショップ ボー・デコール
新潟市秋葉区新津4462-1 TEL 0250-22-0195
営業時間:10:00-19:00(水曜定休)

三方舎
新潟市秋葉区新津本町3丁目3-12
TEL 0250-25-3939
オープン日、イベント詳細はHPでご確認ください
<http://www.sps-i.jp>
「モロッコキリムとプロジェクト絨毯展」
●9/22~ 三方舎にて
●10/6~ ボー・デコールにて